

HoLEP (ホルミウムレーザー前立腺核出手術) による前立腺肥大症の新しい治療

お問い合わせ



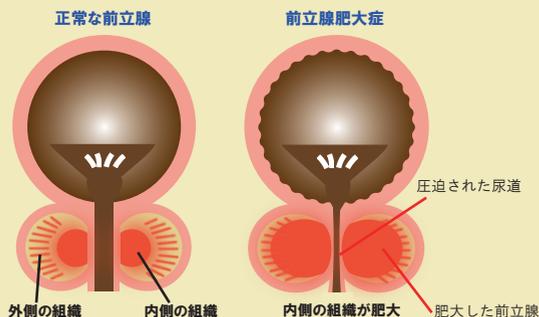
国際医療福祉大学熱海病院

代表) 0557-81-9171

前立腺肥大症とは

前立腺肥大症とは、前立腺が肥大してさまざまな排尿の症状を引き起こす病気です。前立腺が肥大する原因はわかっていませんが、男性ホルモンなどの性ホルモン環境の変化が関与するといわれています。発症する明らかな危険因子は加齢ですが、その他に遺伝的要因、食生活、肥満、高血圧、高血糖、脂質異常などがあげられます。前立腺は直腸と恥骨の間にあり、膀胱の出口に位置し、尿道を取り囲んでいます。このため、前立腺が肥大すると尿道が圧迫されて、排尿に関わるいろいろな症状が出現します。

一般的な成人男性の前立腺の大きさは、体積で表した場合には20ml以下といわれています。ところが前立腺が肥大すると、クルミ程度の大きさのものが、卵やみかんの大きさに肥大します。



前立腺肥大症の症状①

前立腺肥大症では、排尿症状（排尿困難をはじめとする尿を出すことに関連した症状）、蓄尿症状（尿を貯めることに関連した症状）、排尿後症状（排尿した後に出現する症状）がみられます。

●排尿症状

排尿困難とは、尿が出にくい症状の総称ですが、「尿の勢いが弱い」、「尿が出始めるまでに時間がかかる（尿を出したくてもなかなか出ない）」、「尿がわかれる（尿線がわかれて出る）」、「排尿途中で尿が途切れる」、「尿をするときに力まなければならない」などの症状があります。

●頻尿症状

前立腺肥大症では多くの場合、頻尿がみられます。頻尿については一日何回以上という定義はありませんが、昼間（朝起きてから就寝まで）については概ね8回より多い場合、夜間は就寝後1回以上排尿のために起こる場合、それぞれ「昼間頻尿」、「夜間頻尿」と考えられます。

膀胱が過剰に活動する状態である「尿意切迫感」は、急に我慢できないような強い尿意が起こる症状をいいます。また、尿意切迫感があって、トイレまで間に合わずに尿が漏れてしまうような症状を「切迫性尿失禁」といいます。尿意切迫感があり、頻尿を伴うものを過活動膀胱といいますが、前立腺肥大症の患者さんの50～70%が過活動膀胱を合併します。過活動膀胱では、まだ膀胱に十分に尿が貯まっていないのに、膀胱が勝手に収縮してしまうので、すぐに排尿したくなってトイレに行く、つまり頻尿になります。

前立腺肥大症で、排尿後に膀胱内に尿が多量に残るようになると、膀胱に新たに貯められる尿量が減って、結果的に頻尿になる場合があります。なお、頻尿は、前立腺肥大症以外にも、さまざまな病気や状態によって起こります。

たとえば、脳卒中やパーキンソン病などの中枢神経疾患では過活動膀胱が起こるために頻尿となります。また、膀胱炎や前立腺炎などの感染症では、炎症のために尿意が催して頻尿となります。高血圧、心不全、腎機能障害、足のむくみなどでは、夜間尿量が多くなるため夜間頻尿がみられます。病気ではなくても、水分を摂りすぎることによって尿量が多くなるために頻尿となる場合もあります。水分をたくさん摂ることによって、血液がさらさらとなり脳卒中の予防になるという説を信じて、水分をたくさん摂っている方が非常に多いのですが、この説には科学的根拠はなく、自分で頻尿の原因を作ることになっていることが少なくありません。

前立腺肥大症の症状②

●排尿後症状

排尿後である「残尿感」とは、排尿後に「どうもすっきりしない」、「尿が残っているような感じがする」といった感じのことです。また、尿が終わったと思って下着をつけると、尿がたらっともれて下着が汚れることがありますが、これを「排尿後尿滴下」といいます。

前立腺肥大症の治療

前立腺肥大症の治療には、大別すると薬物治療、手術治療、保存治療の3つがあります。

肉眼的血尿、尿路感染、尿閉、膀胱結石、腎機能障害などの前立腺肥大症による合併症がみられる場合には、手術療法が行われます。

また、薬物療法を行っていても、症状の十分な改善が得られない場合などにも手術療法が行われます。最近では、レーザーを用いた新しい内視鏡手術も行われています。



ホルミウムレーザー前立腺核出手術 (HoLEP)

従来の標準的手術法である経尿道的前立腺切除術 (TUR-P) は、尿道から内視鏡を挿入し、内視鏡の先端に装着した切除ループに電流を流し（電気メスと同じ）、肥大した前立腺組織を尿道側から切除する方法です。“かんなで木を削る”ように、肥大した前立腺（内腺）を少しずつ切除します。

それに対し、新しい手術法であるホルミウムレーザー前立腺核出手術 (HoLEP) は、レーザーを用いて、血管の少ないところを切ってゆき、完全にくり抜くように前立腺肥大組織を切除します。出血が極めて少なく、従来の経尿道的前立腺切除術 (TUR-P) で実施できない100gを超えるような大きな前立腺肥大症に対しても安全に施行可能で、手術可能となる症例の幅が大きく広がりました。

メリット

- メスを使わず身体への負担が少ない
- 高い安全性、少ない合併症
- 痛みが少ない
- 入院期間が短い
- 再発がほとんどない

費用について

HoLEPは入院期間が一週間程度、健康保険が利用できます。費用は3割負担の方で18万円前後、1割負担の方で6万円前後となります。

尚、高額医療の対象となるため、詳細は入院係にお問い合わせください。



パーサパルス ホルミウムレーザー